

第8章 目標指標と進行管理

1 目標値と効果指標

施策の効果を客観的に評価・分析するため、課題解決に必要な施策・誘導方針に対応する定量的な「数値目標」を設定します。また、数値目標の達成により「期待される効果」を設定します。

(1) 目標値

立地適正化計画の目標として、経年的に定量的なデータの収集・分析が可能な代表指標として、以下の5項目を設定します。

①定住魅力の向上

目標指標		基準値	目標値
居住誘導区域の人口密度	若者や子育て世代等の定住・移住等の促進により居住誘導区域の人口密度の維持を目指す。	47.8人/ha (令和2年)	47.8人/ha (令和22年)

②拠点機能の強化

目標指標		基準値	目標値
日常生活サービスの徒歩圏充足率	誘導施設の適正な維持・誘導等により都市の生活利便性の維持を目指す。	54.4% (平成29年)	54.4% (令和22年)

③公共交通ネットワークの充実

目標指標		基準値	目標値
鉄道及び福祉バス利用者数の総人口に占める割合	公共交通の利便性の向上により、鉄道及び福祉バスの利用割合の増加を目指す。	27.9% (令和元年)	33.0% (令和22年)

④防災訓練等参加者数【第7章 防災指針関連】

目標指標		基準値	目標値
防災指針のソフト施策（地域協働、啓発等）により、住民意識、行動の維持向上を目指す。		539人 (令和元年)	749人以上 (令和22年)

⑤避難所等500m圏域人口カバー率【第7章 防災指針関連】

目標指標		基準値	目標値
防災指針のハード・ソフト施策（協定による避難所等の確保など）により、まち全体の防災・減災機能の向上を図り、安全安心に暮らせるまちを目指す。		79.4% (令和元年)	100.0% (令和22年)

(2) 期待される効果

本計画に位置付ける施策を実施することで、前ページに示す目標の達成を目指します。

その結果、居住誘導区域内の魅力が向上し、都市機能誘導区域内における地域経済の活性化、「都市のスポンジ化」の抑制が期待され、住民が安全安心で快適に住み続けることができる持続可能なまちの形成を図ります。

2 進行管理

本計画は、概ね5年毎に目標値等の達成状況や事業・施策等の進行状況の評価・検証（PDCA サイクル）を実施するとともに、今後の社会情勢の変化や都市計画マスタープランの改定、その他各種計画の変更等を踏まえ、忠岡町都市計画審議会へ報告し、必要に応じて本計画の見直しを行います。

